

活躍する消費生活アドバイザー

——消費生活アドバイザーマインドをもって、活動の場を広げています

知花紀子さん(消費生活アドバイザー 24期)

平成14年度、消費生活アドバイザーの受験年齢制限が撤廃され、以降、学生の受験が可能となりました。平成21年度までの合格者の累計は38人になります。

撤廃の初年度に2人の学生が合格しました。そのお一人である知花さんに、受験動機から今日の社会人としての仕事への取組みについてお話をうかがいました。

——**学生資格者第一号を目指して、消費生活アドバイザー試験を受験されたのですか。**

知花 「第一号」といったことはまったく考えていませんでした。せっかく試験を受けられるようになったのだから、という気軽な気持ちです。この資格との出会いは、大学3年の頃、進路に関する雑誌の資格紹介ページで「今年から学生も受けられる」として取り上げられていたことでした。

当時、私は食品スーパーでアルバイトをしていました。狂牛病が問題とされていた時期で、連日、新聞やテレビには、「ここが危険だ」「こういうふうには食べてはいけない」などといった、様々な情報が飛び交っており、また、私自身もアルバイト先でお客様からたくさんのお問い合わせをいただいていた。そのとき、問い合わせが殺到している窓口の様子を紹介したニュース番組を見て、専門的に消費者対応にあたる仕事があることを知り、そういった職種に興味をもつようになりました。

消費生活アドバイザー資格は、そうした仕事に関連する資格ということで、試験対策の通信講座を申し込みました。実際にテキストが届いてみると、分厚く、範囲がとても広いんですね。大変でしたが、知らない世界を広く勉強できて面白かったです。

法学部だったこともあり、消費者関係の法律や割賦販売については講義で学んでいましたので、ベースがある程度できていたことが合格につながったのかもしれない。

——**大学卒業後、総合スーパーに勤められたようですが、就職活動に資格が役に立ちましたか。**

知花 消費生活アドバイザー試験の合格発表は内定が決まった後でしたので、就職活動では資格取得をアピールできませんでした。ただ、採用の面接時に、この資格試験を受け、結果待ちであることは話していました。自分がどういうことに関心を持ち、そのために知識を身につけようとしていることは伝えられたと思います。面接では、小売りの現場の方や消費者対応にあたっている方が関心をもたれたようで、資格についての話を熱心に聞いてくださいました。

この資格は、取得がすぐに就職につながるものというよりは、自分の関心を示す一つの指標となるものではないかと思います。その材料として、とても説得力があるのではないのでしょうか。

——**その後、現在の印刷・制作会社に転職されています。それぞれの仕事で、どのようなときに消費生活アドバイザーの資格が力になりますか。**

知花 総合スーパーでは、福岡県や熊本県の店舗に配属された後、広島県の本社で業務改善や社員教育、社内報の制作などに携わりました。店舗で働いていた際は、家庭用品や家電製品の売り場に配属されていました。そこでは、通信講座で学んだ繊維や家電製品のマークなどについての知識が役に立ちました。「そうそう、あそこに出ていた」という場面がよくありましたね。

社内報を制作しているうちに、もっと専門的に作る側に回りたい気持ちが強くなり、自分にとっての仕事というものを考え直しはじめました。現在の職場である株式会社トライは、自分が一番関心のある分野の制作物を扱っていることから入社を決めました。一度は住んでみたかった東京の会社だったことも理由の一つです。

トライは、官公庁や公益法人のパンフレットなどの制作をお手伝いすることが多い会社です。私の仕事は営業企画や制作進行ですので、ふだん消費生活アドバイザー資格を直接的に活かすことはありませんが、国の制度の背景や実施の意義について、消費生活アドバイザーの勉強をしたことで理解しやすい面があるような気がしています。

また、一般消費者の方にわかりやすくするにはどうしたらよいかも、意識しますね。専門的な知識もさらに磨き、お客様にアドバイスできるようになりたいと考えています。

——消費生活アドバイザー資格者、またこれから資格を取得しようとしている方に向けてのメッセージを。

知花 消費生活アドバイザー資格は、直接仕事に結びつかなくても、プラスの面が大きいと思います。社会人としての経験を積むほどに増していく、知っておかなければいけない基本的な知識が、この資格取得を目指す学習の中に盛り込まれています。宅地建物取引主任者や中小企業診断士など、資格試験はたくさんありますけれど、いろいろな範囲を網羅している消費生活アドバイザー資格は、そのベースの知識として利用できるように思います。社会人としての「振り返り学習」のような感じで受験しても、あらゆる業種で使えるのではないのでしょうか。ベースとなる知識を身

につけておくと、経験を重ねるほどに視野も広がるのではないかと思っています。

また、取得者が毎年生まれていますので、取得者同士の新しい形の交流があってもよいかと思います。学生時代、消費生活アドバイザーを目指す人たちが情報交換をしているサイトにアクセスし、やりとりを通じてずいぶんと励まされました。そういった方々が、いまどういった活動をされているのか知りたいと思うことがあります。

消費生活アドバイザーの活動を目にする機会が増えてほしいものです。



ちばな・のりこ

北九州市立大学在学中に試験に合格。大学卒業後、西日本で総合スーパーを展開する会社に入社。販売、店舗管理業務や社員教育業務等に従事。2008年8月、株式会社トライに入社、各企業・団体の印刷物・広報媒体の企画提案・制作進行に携わる。(旧姓山内。消費生活アドバイザー登録は、合格の翌年度で24期となる。)